

平成 27 年度 病床機能報告結果 （診療実績等）における考察部分の再掲

（各医療機能区分の病床数について）

- ・将来の必要病床数と直近の病床機能報告の結果を比べると、急性期のみが過剰となっている。
- ・高度急性期と報告のあった病院はない。
- ・現在、入院で対応している患者のうち将来的に在宅医療へ移行することが可能と考えられる患者は、平成 37 年で 222 人と推計されており、新たに在宅医療の提供体制の整備が必要である。

（算定する入院基本料届出病床数について）

- ・急性期と報告のあった病棟について、十和田市立中央病院のみが一般病棟 7 対 1 入院基本料の届出をしている。
- ・七戸病院のみが地域包括ケア病棟入院料 1 の届出をしている。

（認定・届出等について）

- ・在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院の届出を行っている病院はない。

（手術の状況について）

- ・急性期と報告のあった病院において、1 カ月の手術件数が 30 件に満たない病院がある。
- ・急性期と報告のあった病院において、全身麻酔の手術を行っていない病院がある。

（がん、心筋梗塞、分娩への対応状況について）

- ・悪性腫瘍の手術を月 10 件以上行っているのは、十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院の 2 病院である。
- ・心筋梗塞（経皮的冠動脈形成術）の手術を行っているのは、十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院の 2 病院である。
- ・分娩取扱を行っているのは、三沢市立三沢病院だけである。

（救急医療の実施状況について）

- ・救急車受入件数が年間 750 件を超えている病院は、十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院、野辺地病院の 3 病院である。